

令和元年度執行事務事業

施策名	基本事業	番号	事務事業名
文化芸術活動の推進	文化芸術団体との連携・支援	1	佐野市文化協会支援事業
		2	佐野市郷土芸能保存会連絡協議会支援事業
		3	佐野の越名舟唄全国大会支援事業
		4	公益財団法人佐野市民文化振興事業団支援事業
		5	牧歌舞伎地元公演支援事業

事務事業名		佐野市文化協会支援事業					評価区分(事前評価・事後評価)			事後評価(A・B表)			
政策体系	基本目標	2 新たな流れの創造による賑わうまちづくり					事業区分	担当組織	担当部	産業文化部	担当課	文化立市推進課	
	政策	3 歴史・文化を守り育てるまちづくり						担当係	文化立市推進係	担当課長名	上岡幸宏		
	施策	1 文化芸術活動の推進						新規事業・継続事業	継続事業				
	基本事業	2 文化芸術団体との連携・支援						実施計画事業・一般事業	一般事業				
予算科目	短縮コード	会計	款	項	目	予算細事業名							
	2096	一般会計	2	1	17	佐野市文化協会支援事業							
事業計画	単年度繰り返し	事業期間	平成17年度～ 年度		根拠法令 条例等	佐野市補助金等交付規則							
						市単独事業・国県補助事業	市単独事業						
						任意的事業・義務的事業	任意的事業						
						実施方法	一部委託						
						事業分類	支援事業						
						リーディングプロジェクト	該当なし						
						市長市政公約	該当なし						

1. 事務事業の現状把握【DO】

(1) 事務事業の手段・目的・結果・各指標

① 手段(事務事業の主な活動内容を記入します。)										
事業概要(具体的な事務事業の活動内容・進め方)			令和元年度実績(令和元年度に行った主な活動内容)							
佐野市文化協会に補助金を運営費補助として交付している。			(市の活動) ・文化協会に補助金を支出するための手続を行う。 ・市民文化祭の共催(春・秋)							
※佐野市文化協会とは、文化及び芸術活動を通じて、文化団体相互の連携を図り、広く市民参加を求めて、市民文化の向上を期することを目的とした団体である。			(佐野市文化協会の活動) 総会、市民文化祭(前期・後期)、各部門の活動推進、佐野桜の配布。会員研修会、市長を囲む文化懇談会、会報「さの文化」の発行、佐野市文化振興大会、両毛5市、県南文化協会関係事業等							
			活動指標	単位	H29年度(実績)	H30年度(実績)	R1年度(実績)	R2年度(見込)	R3年度(見込)	
			文化協会の会員数(正会員、賛助会員)	人	1,718	1,699	1,607	1,710	1,720	
			文化協会が実施する事業の参加者数及び入場者数	人	10,311	9,675	10,842	10,100	10,200	
② 対象(この事務事業は誰・何を対象としていますか?)										
佐野市文化協会			対象指標	単位	H29年度(実績)	H30年度(実績)	R1年度(実績)	R2年度(見込)	R3年度(見込)	
			文化協会の正会員数	人	1,570	1,559	1,463	1,570	1,580	
			文化協会加入団体数	団体	94	97	94	99	100	
③ 意図(この事務事業によって、対象をどのような状態にしたいのですか?)										
文化協会の円滑な運営と財政の健全化を図る。			成果指標	単位	H29年度(実績)	H30年度(実績)	R1年度(実績)	R2年度(目標)	R3年度(目標)	
			文化協会の正会員数	人	1,570	1,559	1,463	1,570	1,580	
			文化協会が実施する事業の参加者数及び入場者数	人	10,311	9,675	10,842	10,100	10,200	
④ 結果(どのような結果に結びつきますか?)										
文化芸術活動の発表の場と情報を提供し、文化芸術活動を担う人材を育成する。			上位成果指標	単位	H29年度(実績)	H30年度(実績)	R1年度(実績)	R2年度(目標)	R3年度(目標)	
			文化活動団体の登録数	団体	109	110	106	114	114	

(2) 総事業費の推移・内訳

事業費 投入量	財源内訳	単位	H29年度(実績)		H30年度(実績)		R1年度(実績)		R2年度(目標)		R3年度(目標)	
	国庫支出金	千円										
	県支出金	千円										
	地方債	千円										
	その他	千円										
	一般財源	千円		2,626	2,626	2,626	2,526	2,526				
	事業費計(A)	千円		2,626	2,626	2,626	2,526	2,526				
	事業費の内訳	千円	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費
			補助金	2,626	補助金	2,626	補助金	2,626	補助金	2,526	補助金	2,526
	正規職員従事人数	人	2		1		1		1		1	
のべ業務時間	時間	1,700		1,172		1,750		1,100		1,050		
人件費計(B)	千円	6,487		4,478		6,676		4,197		4,006		
トータルコスト(A)+(B)	千円	9,113		7,104		9,302		6,723		6,532		

事務事業名	佐野市文化協会支援事業	担当部	産業文化部	担当課	文化立市推進課	担当係	文化立市推進係
-------	-------------	-----	-------	-----	---------	-----	---------

(3) 事務事業を取り巻く環境変化・市民の意見等

①この事務事業は、いつ頃、どのようなきっかけで開始しましたか？	昭和54年の旧佐野市を始め、同時期に田沼町、葛生町でも、市民の芸術文化の向上を図るため、それぞれ文化協会を設立し、個々の文化団体の育成、支援をしてきた。平成17年4月に合併し、新佐野市文化協会が設立した。
②事務事業を取り巻く環境(対象者や国・県などの法令等、社会情勢など)は事務事業の開始時期や合併前と比べてどのように変化していますか？	それぞれ旧市町にあった文化協会の設立時に比べて、多種多様な文化団体が加入している。合併により、新文化協会に生まれ変わり大きな組織となったので、会員の高齢化、協会事務の増大化となっている。
③この事務事業に対して、関係者(市民、議会、事務事業対象者)からどのような意見・要望がありますか？	平成22年に市監査委員から、外郭団体の事務に市職員が従事することは問題があると指摘され、平成23年4月から、専任の事務局長を配置し、改善を図った。また、同様の指摘は平成29年度の業務量調査においても外部コンサルタントから指摘されている。

(4) 前年度の評価結果に対する改革・改善の取組

前年度の評価結果	評価結果を受けて行った具体的な改革・改善の取組
事業のやり方改善(成果向上の見直し)	平成28年度より外部へのPR事業として始めた「学校訪問出前講座」「イオンモール利用事業」「市民ギャラリー活用事業」を「文化芸術ふれあい事業」として広めることで、多くの人達に文化協会を認知してもらうことができた。

2. 事務事業の事後評価【Check】

目的 妥当性 評価	①政策体系との整合性 この事務事業の目的(対象・意図)は、政策体系(結果)に結びついていますか？	結びついている	理由・改善案	文化協会を支援することにより、本市の文化振興が図られる。
	②公共関与の妥当性 なぜこの事務事業を市が行わなければならないのですか？ 民間やNPO、市民団体などに委ねることはできませんか？	市が行わなければならない	理由・改善案	本市には芸術文化の振興の責務があり、支援が欠かせない。またこうした業務を行う民間やNPOが本市には存在しない。
	③対象・意図の妥当性 事務事業の現状や成果から考えて、対象と意図を見直す必要がありますか？	妥当である	理由・改善案	文化協会を支援することにより、本市の芸術文化の振興が図られる。
有効性 評価	④事務事業の成果向上余地 事務事業の成果は出ていますか？ 事務事業のやり方・進め方を見直すことで成果を向上させることができますか？	成果向上余地がある程度ある	理由・改善案	文化協会の充実を図ることにより、市民の文化、芸術に対する意識が高まる。
	⑤類似事務事業との統合・連携の可能性 類似の目的や活動形態を持つ他の事務事業がありますか？ ある場合は、その事務事業との統合・連携ができますか？	類似事務事業はない	理由・改善案	
効率性 評価	⑥事業費・人件費の削減余地 事務事業の成果を低下させずに事業費・人件費を削減することができますか？	削減の余地はない	理由・改善案	文化協会を運営する上で必要なものであり削減を見込めないが、行政への依存度を軽減できるよう、文化協会事務局員の育成に努めている。
	⑦受益者負担の適正化余地 この事務事業の受益者は誰ですか？事務事業の目的や成果から考えて受益者負担を見直す必要がありますか？	現在の受益者負担は適正である	理由・改善案	協会自ら、加入団体から会費を徴収している。
総合 評価	⑧本事業の休止・終了条件(本事業はどんな状態になれば休止・廃止、事業終了となるか？)			
	文化協会が自立して協会運営が行えるようになれば廃止できる。			

3. 評価結果の総括と今後の方向性【Action】

(1) 今後の事務事業の方向性	(2) 改革・改善による期待効果	(3) 改革・改善を実現するうえで解決すべき課題(壁)とその解決策																							
事業のやり方改善(成果向上の見直し) * 評価結果に基づいた改革改善案を記入します。(複数ある場合は、①②・・・と記入します。現状維持の場合は記入しません。) 協会の活動内容を見直しながら、協会の存在をより多くの市民に認識してもらい、会員数の増加を図る。	廃止・休止の場合は、記入不要×の領域は改革改善ではない。 <table border="1"> <tr> <td colspan="2"></td> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <td colspan="2"></td> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td></td> <td>×</td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>			コスト					削減	維持	増加	成果	向上		○		維持			×	低下		×	×	会員の高齢化により、新規加入する団体の数より、脱退する団体の数が多くなりつつある。若い世代の取込みが急務である。
		コスト																							
		削減	維持	増加																					
成果	向上		○																						
	維持			×																					
	低下		×	×																					

事務事業名		佐野市郷土芸能保存会連絡協議会支援事業					評価区分(事前評価・事後評価)			事後評価(A・B表)	
政策体系	基本目標	2 新たな流れの創造による賑わうまちづくり					担当組織	担当部	産業文化部	担当課	文化立市推進課
	政策	3 歴史・文化を守り育てるまちづくり					担当係	文化立市推進係		担当課長名	上岡幸宏
	施策	1 文化芸術活動の推進					新規事業・継続事業		継続事業		
	基本事業	2 文化芸術団体との連携・支援					実施計画事業・一般事業		一般事業		
予算科目	短縮コード	会計	款	項	目	予算細事業名					
	2002	一般	2	1	17	佐野市郷土芸能保存会連絡協議会支援事業					
	事業区分		市単独事業・国県補助事業		市単独事業		任意的事業・義務的事業		任意的事業		
事業計画	単年度繰り返し	事業期間	平成2年度～	年度	根拠法令 条例等	佐野市補助金等交付規則		実施方法		一部委託	
							事業分類		支援事業		
							リーディングプロジェクト		該当なし		
						市長市政公約		該当なし			

1. 事務事業の現状把握【DO】

(1) 事務事業の手段・目的・結果・各指標

① 手段(事務事業の主な活動内容を記入します。)

事業概要(具体的な事務事業の活動内容・進め方)	令和元年度実績(令和元年度に行った主な活動内容)					
市内の郷土芸能保存・継承活動を行う14団体が、佐野市郷土芸能保存会連絡協議会を結成して活動している。伝統文化の育成を図るため、これらの団体の後継者育成及び活動を支援する。 具体的には、同協議会に団体の人材育成と運営費補助としての補助金を交付している。	(1) 総会等の会議 (2) 第30回郷土芸能フェスティバル及び各団体の事業の一部台風19号での被災により中止					
活動指標	単位	H29年度(実績)	H30年度(実績)	R1年度(実績)	R2年度(見込)	R3年度(見込)
協議会加入団体会員数	人	250	227	234	230	230
加入団体数	団体	15	13	12	13	13

② 対象(この事務事業は誰・何を対象としていますか?)

佐野市郷土芸能保存会連絡協議会	対象指標	単位	H29年度(実績)	H30年度(実績)	R1年度(実績)	R2年度(見込)	R3年度(見込)
	佐野市郷土芸能保存会連絡協議会会員数	人	250	227	234	230	230

③ 意図(この事務事業によって、対象をどのような状態にしたいのですか?)

① 協議会の円滑な運営と財政の健全化を図ることにより、継続して郷土芸能の保存・伝承活動が続けられる。 ② 後継者育成にもつながる。	成果指標	単位	H29年度(実績)	H30年度(実績)	R1年度(実績)	R2年度(目標)	R3年度(目標)
	事業等の来場者数	人	12,762	10,420	-	10,500	10,500
	子どもの参加人数	人	52	34	-	35	35

④ 結果(どのような結果に結びつきますか?)

有形無形の文化財を適切に保存保護し、継承して後世に残す。	上位成果指標	単位	H29年度(実績)	H30年度(実績)	R1年度(実績)	R2年度(目標)	R3年度(目標)
	伝統文化の発表の場への参加団体数	団体	9	7	4	11	12

(2) 総事業費の推移・内訳

事業費 投入量	財源内訳	単位	H29年度(実績)	H30年度(実績)	R1年度(実績)	R2年度(目標)	R3年度(目標)			
	国庫支出金	千円								
	県支出金	千円								
	地方債	千円								
	その他	千円								
	一般財源	千円	600	600	396	500	500			
	事業費計(A)	千円	600	600	396	500	500			
	事業費の内訳	千円	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費		
			補助金	600	補助金	600	補助金	396	補助金	500
	人件	正規職員従事人数	人	2	1	1	1	1		
費	のべ業務時間	時間	757	378	663	365	360			
	人件費計(B)	千円	2,889	1,444	2,529	1,392	1,373			
トータルコスト(A)+(B)		千円	3,489	2,044	2,925	1,892	1,873			

事務事業名	佐野市郷土芸能保存会連絡協議会支援事業	担当部	産業文化部	担当課	文化立市推進課	担当係	文化立市推進係
-------	---------------------	-----	-------	-----	---------	-----	---------

(3) 事務事業を取り巻く環境変化・市民の意見等

①この事務事業は、いつ頃、どのようなきっかけで開始しましたか？	平成2年11月に、郷土芸能の保存・保護を図ることを目的に旧佐野市で開始した。
②事務事業を取り巻く環境(対象者や国・県などの法令等、社会情勢など)は事務事業の開始時期や合併前と比べてどのように変化していますか？	各団体の設立の目的や設立時に比べて、環境が大きく変わってきている。また、高齢化が進み、後継者育成が必要となっている。協議会では、合併後から旧田沼・旧葛生地区の団体に呼びかけ、2団体に協力を得ていたが、平成22年度に話がまとまり、23年度に一本化が図られた。
③この事務事業に対して、関係者(市民、議会、事務事業対象者)からどのような意見・要望がありますか？	協議会へ更なる支援をいただきたい。また後継者育成にも支援願いたいとの要望あり。

(4) 前年度の評価結果に対する改革・改善の取組

前年度の評価結果	評価結果を受けて行った具体的な改革・改善の取組
現状維持	

2. 事務事業の事後評価【Check】

目的 妥当性 評価	①政策体系との整合性 この事務事業の目的(対象・意図)は、政策体系(結果)に結びついていますか？	結びついている		理由・改善案	佐野市郷土芸能保存会連絡協議会を支援することにより、本市の郷土芸能の保存・保護が図られる。
	②公共関与の妥当性 なぜこの事務事業を市が行わなければならないのですか？ 民間やNPO、市民団体などに委ねることはできませんか？	市が行わなければならない		理由・改善案	佐野市郷土芸能保存会連絡協議会を支援することにより、市の郷土芸能の保存、保護が図られるとともに郷土芸能の伝承が図られる。地域の伝統文化・芸能の保存保護は行政の責務でもあるため、市で行う必要がある。
	③対象・意図の妥当性 事務事業の現状や成果から考えて、対象と意図を見直す必要がありますか？	妥当である		理由・改善案	佐野市郷土芸能保存会連絡協議会の支援・充実を更に図ることや、発表の場を増やすことにより、市民の郷土芸能に対する意識が高まる。
有効性 評価	④事務事業の成果向上余地 事務事業の成果は出ていますか？ 事務事業のやり方・進め方を見直すことで成果を向上させることができますか？	成果向上余地がない		理由・改善案	佐野市郷土芸能保存会連絡協議会の支援・充実を更に図ることや、発表の場を増やすことにより、市民の郷土芸能に対する意識が高まる。
	⑤類似事務事業との統合・連携の可能性 類似の目的や活動形態を持つ他の事務事業がありますか？ ある場合は、その事務事業との統合・連携ができますか？	類似事務事業はない		理由・改善案	
	*類似事務事業があれば、名称を記入				
効率性 評価	⑥事業費・人件費の削減余地 事務事業の成果を低下させずに事業費・人件費を削減することができますか？	削減の余地はない		理由・改善案	佐野市郷土芸能保存会連絡協議会の支援・充実を更に図ることや、発表の場を増やすことにより、市民の郷土芸能に対する意識が高まる。
	⑦受益者負担の適正化余地 この事務事業の受益者は誰ですか？事務事業の目的や成果から考えて受益者負担を見直す必要がありますか？	現在の受益者負担は適正である		理由・改善案	協議会は、加入団体から会費を徴収している。各団体とも会員から会費を徴収している。
総合 評価	⑧本事業の休止・終了条件(本事業はどんな状態になれば休止・廃止、事業終了となるか？)				
協議会が自立して運営及び後継者育成事業等を行うことができれば、廃止できる。					

3. 評価結果の総括と今後の方向性【Action】

(1) 今後の事務事業の方向性	(2) 改革・改善による期待効果	(3) 改革・改善を実現するうえで解決すべき課題(壁)とその解決策																					
現状維持(従来通り実施)	廃止・休止の場合は、記入不要 ×の領域は改革改善ではない。 <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td colspan="2" rowspan="2"></td> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td>○</td> <td>×</td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持		○	×	低下		×	×	
				コスト																			
		削減	維持	増加																			
成果	向上																						
	維持		○	×																			
	低下		×	×																			
* 評価結果に基づいた改革改善案を記入します。 (複数ある場合は、①②・・・と記入します。現状維持の場合は記入しません。)																							

事務事業名		佐野の越名舟唄全国大会支援事業					評価区分(事前評価・事後評価)			事後評価(A・B表)			
政策体系	基本目標	2 新たな流れの創造による賑わうまちづくり					事業区分	担当組織	担当部	産業文化部	担当課	文化立市推進課	
	政策	3 歴史・文化を守り育てるまちづくり						担当係	文化立市推進係	担当課長名	上岡幸宏		
	施策	1 文化芸術活動の推進						新規事業・継続事業	継続事業				
	基本事業	2 文化芸術団体との連携・支援						実施計画事業・一般事業	一般事業				
予算科目	短縮コード	会計	款	項	目	予算細事業名	市単独事業・国県補助事業	市単独事業					
	2098	一般	2	1	17	佐野の越名舟唄全国大会支援事業	任意的事業・義務的事業	任意的事業					
事業計画	単年度繰り返し	事業期間	平成10年度～ 年度		根拠法令 条例等	佐野市補助金等交付規則	実施方法	一部委託					
							事業分類	支援事業					
							リーディングプロジェクト	該当なし					
							市長市政公約	該当なし					

1. 事務事業の現状把握【DO】

(1) 事務事業の手段・目的・結果・各指標

① 手段(事務事業の主な活動内容を記入します。)

事業概要(具体的な事務事業の活動内容・進め方)		令和元年度実績(令和元年度に行った主な活動内容)						
主催者は市と佐野の越名舟唄全国大会運営委員会である。運営委員会は、大会を開催するため、会議で運営方法を決定する。市は、運営委員会に交付金の支出手続を行うほか、運営委員会の開催及び大会の運営を行う。		第22回佐野の越名舟唄全国大会 (1) 大会実施日 9月15日(日) (2) 場所 佐野市文化会館 (3) エントリー数 113人(熟年の部91人、実年の部15人、発表の部(審査対象外)7人)						
※佐野の越名舟唄全国大会運営委員会は、佐野の越名舟唄全国大会を円滑に運営するために、関係する団体の役員、市関係者等で構成された組織。当該が事務局を担っている。		活動指標	単位	H29年度(実績)	H30年度(実績)	R1年度(実績)	R2年度(見込)	R3年度(見込)
		案内状発送数	通	2,000	1,558	1,500	1,600	1,600
		広報、宣伝回数	回	6	6	6	6	6

② 対象(この事務事業は誰・何を対象としていますか?)

佐野市民及び全国の参加者		対象指標	単位	H29年度(実績)	H30年度(実績)	R1年度(実績)	R2年度(見込)	R3年度(見込)
		佐野市民	人	120,018	119,348	118,450	117,706	

③ 意図(この事務事業によって、対象をどのような状態にしたいのですか?)

①佐野の越名舟唄全国大会に参加していたことで、越名舟唄を全国的に地名度を上げる。		成果指標	単位	H29年度(実績)	H30年度(実績)	R1年度(実績)	R2年度(目標)	R3年度(目標)
②佐野市民に越名舟唄を浸透させる。		出場者数	人	171	163	113	165	165
③出場者数の県外参加者との割合		出場者中の県外参加者の割合	%	33.6	33.3	31.9	33.5	35.0

④ 結果(どのような結果に結びつきますか?)

有形無形の文化財を適切に保存保護し、継承して後世に残す。		上位成果指標	単位	H29年度(実績)	H30年度(実績)	R1年度(実績)	R2年度(目標)	R3年度(目標)
		伝統文化の発表の場への参加団体数	団体	9	7	4	11	12

(2) 総事業費の推移・内訳

事業費 投入量	財源内訳	単位	H29年度(実績)		H30年度(実績)		R1年度(実績)		R2年度(目標)		R3年度(目標)	
	国庫支出金	千円										
	県支出金	千円										
	地方債	千円										
	その他	千円										
	一般財源	千円	520		520		420		300		300	
	事業費計(A)	千円	520		520		420		300		300	
	事業費の内訳	千円	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費
			交付金	520	交付金	520	交付金	420	交付金	300	交付金	300
	正規職員従事人数	人	2		1		1		1		1	
のべ業務時間	時間	1,000		643		1,105		620		610		
人件費計(B)	千円	3,816		2,457		4,216		2,365		2,327		
トータルコスト(A)+(B)	千円	4,336		2,977		4,636		2,665		2,627		

事務事業名	佐野の越名舟唄全国大会支援事業	担当部	産業文化部	担当課	文化立市推進課	担当係	文化立市推進係
-------	-----------------	-----	-------	-----	---------	-----	---------

(3) 事務事業を取り巻く環境変化・市民の意見等

①この事務事業は、いつ頃、どのようなきっかけで開始しましたか？	平成10年佐野の越名舟唄全国大会を開催し、この大会を新たな観光資源として活用を図るため開始した。
②事務事業を取り巻く環境(対象者や国・県などの法令等、社会情勢など)は事務事業の開始時期や合併前と比べてどのように変化していますか？	出場者が高齢化し、減少が続いている。若年層の獲得のために、発表の部を設けた。平成18年度、商工観光課から文化振興課に事務移管になった。
③この事務事業に対して、関係者(市民、議会、事務事業対象者)からどのような意見・要望がありますか？	出場者中の県外参加者の割合が増加傾向にあり、アンケートに2日間の参加は大変だとの意見が多数あった。

(4) 前年度の評価結果に対する改革・改善の取組

前年度の評価結果	評価結果を受けて行った具体的な改革・改善の取組
事業のやり方改善(コストの見直し)	民謡教室及び呈茶を実施しないことで交付金の額を減じた。

2. 事務事業の事後評価【Check】

目的 妥当性 評価	①政策体系との整合性 この事務事業の目的(対象・意図)は、政策体系(結果)に結びついていますか？	結びついている		理由・改善案	平成17年度事務事業評価会議を経て、商工観光課から文化振興課に事業移管になったもので、当初の観光振興の目的を含めて、市の無形民俗文化財に指定されている越名舟唄を文化振興の観点で行うことにより、目的に結びつくと思われる。
	②公共関与の妥当性 なぜこの事務事業を市が行わなければならないのですか？ 民間やNPO、市民団体などに委ねることはできませんか？	市が行わなければならない		理由・改善案	佐野の越名舟唄全国大会運営委員会を組織しているが、主催者は市であるため。
	③対象・意図の妥当性 事務事業の現状や成果から考えて、対象と意図を見直す必要がありますか？	妥当である		理由・改善案	対象、意図とも妥当である。
有効性 評価	④事務事業の成果向上余地 事務事業の成果は出ていますか？ 事務事業のやり方・進め方を見直すことで成果を向上させることができますか？	成果向上余地がない		理由・改善案	平成27年度から運営方法見直しにより、1日開催で予選・決勝全てを行っている。また、令和元年度は、予算減により、協賛金を集めて事業を実施した。
	⑤類似事務事業との統合・連携の可能性 類似の目的や活動形態を持つ他の事務事業がありますか？ ある場合は、その事務事業との統合・連携ができますか？	類似事務事業はない		理由・改善案	
	*類似事務事業があれば、名称を記入				
効率性 評価	⑥事業費・人件費の削減余地 事務事業の成果を低下させずに事業費・人件費を削減することができますか？	削減の余地はない		理由・改善案	開催期間の短縮、協賛金による収入、審査委員謝金の見直し、民謡教室・呈茶の廃止等の考える削減策を行ったため、事業費削減の余地はない。
	⑦受益者負担の適正化余地 この事務事業の受益者は誰ですか？事務事業の目的や成果から考えて受益者負担を見直す必要がありますか？	現在の受益者負担は適正である		理由・改善案	受益者負担の見直しにより、参加料を増額した。
総合 評価	⑧本事業の休止・終了条件(本事業はどんな状態になれば休止・廃止、事業終了となるか？)				
	大会を廃止するか運営委員会が運営の全てを行うことになれば事業終了となる。				

3. 評価結果の総括と今後の方向性【Action】

(1) 今後の事務事業の方向性	(2) 改革・改善による期待効果	(3) 改革・改善を実現するうえで解決すべき課題(壁)とその解決策																					
現状維持(従来通り実施)	廃止・休止の場合は、記入不要 ×の領域は改革改善ではない。																						
* 評価結果に基づいた改革改善案を記入します。 (複数ある場合は、①②・・・と記入します。現状維持の場合は記入しません。)																							
	<table border="1"> <tr> <td colspan="2" rowspan="2"></td> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td>○</td> <td>×</td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持		○	×	低下		×	×	
				コスト																			
		削減	維持	増加																			
成果	向上																						
	維持		○	×																			
	低下		×	×																			

事務事業名		公益財団法人佐野市民文化振興事業団支援事業				評価区分(事前評価・事後評価)		事後評価(A・B表)		
政策体系	基本目標	2 新たな流れの創造による賑わうまちづくり				担当組織	担当部	産業文化部	担当課	文化立市推進課
	政策	3 歴史・文化を守り育てるまちづくり					担当係	文化立市推進係	担当課長名	上岡幸宏
	施策	1 文化芸術活動の推進					新規事業・継続事業		継続事業	
	基本事業	2 文化芸術団体との連携・支援					実施計画事業・一般事業		一般事業	
予算科目	短縮コード	会計	款	項	目	事業区分	市単独事業・国県補助事業		市単独事業	
	予算細事業名						任意的事業・義務的事業		任意的事業	
							実施方法		直営	
							事業分類		支援事業	
事業計画	単年度繰り返し	事業期間	平成16年度～	年度	根拠法令 条例等	公益財団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律	リーディングプロジェクト		該当なし	
							市長市政公約		該当なし	

1. 事務事業の現状把握【DO】

(1) 事務事業の手段・目的・結果・各指標

① 手段(事務事業の主な活動内容を記入します。)

事業概要(具体的な事務事業の活動内容・進め方)		令和元年度実績(令和元年度に行った主な活動内容)						
平成6年3月に財団法人佐野市民文化振興事業団として設立。文化振興基金を創設して、美術品の購入資金造成や、管理運営の受け皿、市民文化の向上と啓発などの事業を行うにあたり、市民の協力を求めるとの方針により、基金造成に努めた。多くの市民の協力で393,556千円の基金を確保した。(市出損金との合計893,556千円) 事業団の運営はその基金の運用益をもって充てる事を基本としているが、金利の動向により運用益が増減するため、安定的な運営ができるように支援するものである。 平成24年4月1日、公益財団法人への移行申請の登録を完了した。		(市の活動) 公益財団法人佐野市民文化振興事業団運営の支援 (公益財団法人佐野市民文化振興事業団の活動) (1)文化・芸術に触れる機会を提供することを目的とした体験・講座・企画展共催事業 (2)市民の文化・芸術活動や伝統文化の保存・育成を担う団体に対する助成・支援事業 (3)文化・芸術に関する情報収集及び提供事業						
		活動指標	単位	H29年度(実績)	H30年度(実績)	R1年度(実績)	R2年度(見込)	R3年度(見込)
		支援団体数	団体	1	1	1	1	1
		公益目的事業数(講座数)	本	8	7	7	7	7
		公益目的事業数(助成等)	本	2	3	3	3	3

② 対象(この事務事業は誰・何を対象としていますか?)

佐野市民	対象指標	単位	H29年度(実績)	H30年度(実績)	R1年度(実績)	R2年度(見込)	R3年度(見込)
	補助対象団体数	団体	1	1	1	1	1
	市民数	人	120,018	119,348	118,450	117,706	

③ 意図(この事務事業によって、対象をどのような状態にしたいのですか?)

佐野市民文化振興事業団の円滑な運営、財政の健全化を図るとともに、市民に優れた文化環境を提供する。	成果指標	単位	H29年度(実績)	H30年度(実績)	R1年度(実績)	R2年度(目標)	R3年度(目標)
	基金運用に伴う運用益の金額	千円	4,414	4,253	4,247	4,230	4,230
	公益目的事業参加者数	人	404	418	420	420	420

④ 結果(どのような結果に結びつきますか?)

文化・芸術に触れる機会を提供するとともに、文化・芸術活動の発表の場と情報を提供し、文化・芸術活動を担う人材、団体を育成する。	上位成果指標	単位	H29年度(実績)	H30年度(実績)	R1年度(実績)	R2年度(目標)	R3年度(目標)
	何らかの文化活動を行うか、美術館等での講演・展示会などに参加・鑑賞している人の割合	%		54.7	51.2	56.7	57.7
	文化活動団体の登録数	団体	109	110	106	114	114

(2) 総事業費の推移・内訳

事業費 投入量	財源内訳	単位	H29年度(実績)		H30年度(実績)		R1年度(実績)		R2年度(目標)		R3年度(目標)	
	国庫支出金	千円										
	県支出金	千円										
	地方債	千円										
	その他	千円										
	一般財源	千円										
	事業費計(A)	千円		0	0	0	0	0	0	0	0	0
	事業費の内訳	千円	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費
人件	正職員従事人数	人	2		1		1					
	のべ業務時間	時間	2,500		3,140		2,920					
費	人件費計(B)	千円	9,540		11,998		11,140		0		0	
	トータルコスト(A)+(B)	千円	9,540		11,998		11,140		0		0	

事務事業名	公益財団法人佐野市民文化振興事業団支援事業	担当部	産業文化部	担当課	文化立市推進課	担当係	文化立市推進係
-------	-----------------------	-----	-------	-----	---------	-----	---------

(3) 事務事業を取り巻く環境変化・市民の意見等

①この事務事業は、いつ頃、どのようなきっかけで開始しましたか？	平成6年3月に文化振興事業団が設立され、その運営を支援することになった。 平成24年度から公益財団法人として、再スタートとなった。
②事務事業を取り巻く環境(対象者や国・県などの法令等、社会情勢など)は事務事業の開始時期や合併前と比べてどのように変化していますか？	厳しい経済情勢による低金利のため、運用益を確保することが課題となっており、今後は、事業の見直しを図る必要がある。 事業団の運営体制については、専属の職員を雇用することが望ましくなっている。
③この事務事業に対して、関係者(市民、議会、事務事業対象者)からどのような意見・要望がありますか？	事業団の財産について、安全性を第1に、運用を図るべきであるとの指摘がある。

(4) 前年度の評価結果に対する改革・改善の取組

前年度の評価結果	評価結果を受けて行った具体的な改革・改善の取組
現状維持	

2. 事務事業の事後評価【Check】

目的 妥当性 評価	①政策体系との整合性 この事務事業の目的(対象・意図)は、政策体系(結果)に結びついていますか？	結びついている	理由・改善案	文化振興事業団の運営を支援することで、本市の文化・芸術の振興を図ることは、文化を活かしたまちづくりの推進に貢献するものである。
	②公共関与の妥当性 なぜこの事務事業を市が行わなければならないのですか？ 民間やNPO、市民団体などに委ねることはできませんか？	市が行わなければならない	理由・改善案	文化振興事業団の支援は、本市の文化・芸術の振興を図るためであり、支援は必要である。 この事業は支援事業であり、市民協働の観点から考えると、市が支援するべきである。
	③対象・意図の妥当性 事務事業の現状や成果から考えて、対象と意図を見直す必要がありますか？	妥当である	理由・改善案	事業団の支援は、文化・芸術の振興を図っているのが妥当である。
有効性 評価	④事務事業の成果向上余地 事務事業の成果は出ていますか？ 事務事業のやり方・進め方を見直すことで成果を向上させることができますか？	成果向上余地がない	理由・改善案	ある程度の利益を確保する必要があり、地方債の購入を指導した。基金運用は安全性が第1であるため、リスクのある投資をすることはできない。
	⑤類似事務事業との統合・連携の可能性 類似の目的や活動形態を持つ他の事務事業がありますか？ ある場合は、その事務事業との統合・連携ができますか？		類似事務事業名	
			理由・改善案	
効率性 評価	⑥事業費・人件費の削減余地 事務事業の成果を低下させずに事業費・人件費を削減することができますか？	削減の余地はない	理由・改善案	事業費のない支援事業であり、削減の余地はない。
	⑦受益者負担の適正化余地 この事務事業の受益者は誰ですか？事務事業の目的や成果から考えて受益者負担を見直す必要がありますか？	受益者負担を求めない	理由・改善案	事業費のない支援事業であり、受益者負担を求めない。
総合 評価	⑧本事業の休止・終了条件(本事業はどんな状態になれば休止・廃止、事業終了となるか？) 基金の運用益で事務局長ほか専任の職員を雇用し、独立して事業団の運営ができるようになるか、事業団が解散すれば廃止できる。			

3. 評価結果の総括と今後の方向性【Action】

(1) 今後の事務事業の方向性	(2) 改革・改善による期待効果	(3) 改革・改善を実現するうえで解決すべき課題(壁)とその解決策																					
事業のやり方改善(成果向上の見直し) * 評価結果に基づいた改革改善案を記入します。(複数ある場合は、①②・・・と記入します。現状維持の場合は記入しません。) 人員の雇用を行い、独立して運営ができるようにする。	廃止・休止の場合は、記入不要 ×の領域は改革改善ではない。 <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td colspan="2" rowspan="2"></td> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td style="text-align: center;">○</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td></td> <td style="text-align: center;">×</td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td style="text-align: center;">×</td> <td style="text-align: center;">×</td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上	○			維持			×	低下		×	×	・雇用に向けた規程類の整備 ・人員の雇用・確保 ・業務の継承
				コスト																			
		削減	維持	増加																			
成果	向上	○																					
	維持			×																			
	低下		×	×																			

事務事業名		牧歌舞伎地元公演支援事業					評価区分(事前評価・事後評価)			事後評価(A・B表)			
政策体系	基本目標	2 新たな流れの創造による賑わうまちづくり					事業区分	担当組織	担当部	産業文化部	担当課	文化立市推進課	
	政策	3 歴史・文化を守り育てるまちづくり						担当係	文化立市推進係	担当課長名	上岡幸宏		
	施策	1 文化芸術活動の推進						新規事業・継続事業	新規事業				
	基本事業	2 文化芸術団体との連携・支援						実施計画事業・一般事業	一般事業				
予算科目	短縮コード	会計	款	項	目	予算細事業名							
	2099	一般	2	1	17	牧歌舞伎地元公演支援事業							
事業計画	単年度繰り返し	事業期間	H2年度～ 年度		根拠法令 条例等	佐野市補助金等交付規則							
						市単独事業・国県補助事業	市単独事業						
						任意的事業・義務的事業	任意的事業						
						実施方法	一部委託						
						事業分類	講座・教室・イベント等開催事業						
						リーディングプロジェクト	該当なし						
						市長市政公約	該当なし						

1. 事務事業の現状把握【DO】

(1) 事務事業の手段・目的・結果・各指標

① 手段(事務事業の主な活動内容を記入します。)												
事業概要(具体的な事務事業の活動内容・進め方)						令和元年度実績(令和元年度に行った主な活動内容)						
牧歌舞伎保存会に補助金を交付し、牧歌舞伎保存会が隔年で行う地元公演を支援している。 ※牧歌舞伎保存会とは、栃木県指定民俗文化財「牧歌舞伎」の保存、保護に寄与することを目的としている団体である。						隔年開催で今年度開催予定だったが、台風第19号での被災により中止となった。						
活動指標						単位	H29年度 (実績)	H30年度 (実績)	R1年度 (実績)	R2年度 (見込)	R3年度 (見込)	
実行委員会の人数						人	24		24		24	
② 対象(この事務事業は誰・何を対象としていますか?)												
市民						対象指標	単位	H29年度 (実績)	H30年度 (実績)	R1年度 (実績)	R2年度 (見込)	R3年度 (見込)
市民						人	120,018	119,348	118,450	113,667	112,909	
目的												
③ 意図(この事務事業によって、対象をどのような状態にしたいのですか?)						成果指標						
栃木県指定無形民俗文化財「牧歌舞伎」の伝承について理解を深める。						単位	H29年度 (実績)	H30年度 (実績)	R1年度 (実績)	R2年度 (目標)	R3年度 (目標)	
地元公演の来場者数						人	600		-		600	
④ 結果(どのような結果に結びつきますか?)												
有形無形の文化財を適切に保存保護し、継承して後世に残す。						上位成果指標						
伝統文化の発表の場への参加団体数						団体	9	7	4	11	12	

(2) 総事業費の推移・内訳

事業費 投入量	財源内訳	単位	H29年度(実績)		H30年度(実績)		R1年度(実績)		R2年度(目標)		R3年度(目標)	
	国庫支出金	千円										
	県支出金	千円										
	地方債	千円										
	その他	千円										
	一般財源	千円	400				270				400	
	事業費計(A)	千円	400		0		270		0		400	
	事業費の内訳	千円	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費
			補助金	400			補助金	270			補助金	400
	正職員従事人数	人	2				1				1	
のべ業務時間	時間	22				20				20		
人件費計(B)	千円	84		0		76		0		76		
トータルコスト(A)+(B)	千円	484		0		346		0		476		

事務事業名	牧歌舞伎地元公演支援事業	担当部	産業文化部	担当課	文化立市推進課	担当係	文化立市推進係
-------	--------------	-----	-------	-----	---------	-----	---------

(3) 事務事業を取り巻く環境変化・市民の意見等

①この事務事業は、いつ頃、どのようなきっかけで開始しましたか？	牧歌舞伎は、牧地区のもので、保存会が伝承している。地元公演のときは、地元の人々が協力して公演を実施している。平成3年度から牧歌舞伎の支援と地域の活性化のために開始した。
②事務事業を取り巻く環境(対象者や国・県などの法令等、社会情勢など)は事務事業の開始時期や合併前と比べてどのように変化していますか？	保存会が発足して、30年が経過し、会員も年齢が高くなり、後継者育成が必要になっている。また地元関係者の高齢化が進んでいる。
③この事務事業に対して、関係者(市民、議会、事務事業対象者)からどのような意見・要望がありますか？	地元公演に更なる支援をいただきたい。また後継者育成にも支援願いたい。新演目の場合は、衣装等の作成支援はないか検討していただきたい。

(4) 前年度の評価結果に対する改革・改善の取組

前年度の評価結果	評価結果を受けて行った具体的な改革・改善の取組
事業のやり方改善(成果向上の見直し)	広報さの、新聞社やテレビ局等に公演PRを実施した。

2. 事務事業の事後評価【Check】

目的 妥当性 評価	①政策体系との整合性 この事務事業の目的(対象・意図)は、政策体系(結果)に結びついていますか？	結びついている		理由・改善案	牧歌舞伎を支援することにより、牧歌舞伎の保存・継承及び後継者育成が図られる。地域の活性化が図られ地域住民の伝統文化に対する意識が高まり、ひいては市民の郷土芸能に対する意識も高まる。
	②公共関与の妥当性 なぜこの事務事業を市が行わなければならないのですか？ 民間やNPO、市民団体などに委ねることはできませんか？	委ねられる・委ねられる可能性がある		理由・改善案	市民との協働から考えると、補助事業であり、民間やNPOに委ねることはできない。
有効性 評価	③対象・意図の妥当性 事務事業の現状や成果から考えて、対象と意図を見直す必要がありますか？	妥当である		理由・改善案	牧歌舞伎の保存・継承につながり、保存会活動の継続的な活動を支援することになるため。
	④事務事業の成果向上余地 事務事業の成果は出ていますか？ 事務事業のやり方・進め方を見直すことで成果を向上させることができますか？	成果向上余地がある程度ある		理由・改善案	地元公演の来場者を増加させるため、広報活動や支援を積極的に行っていく。
効率性 評価	⑤類似事務事業との統合・連携の可能性 類似の目的や活動形態を持つ他の事務事業がありますか？ ある場合は、その事務事業との統合・連携ができますか？	類似事務事業はない		理由・改善案	
	⑥事業費・人件費の削減余地 事務事業の成果を低下させずに事業費・人件費を削減することができますか？	削減の余地はない		理由・改善案	牧歌舞伎の伝承、保存を図るためには削減は難しい。
公平性 評価	⑦受益者負担の適正化余地 この事務事業の受益者は誰ですか？事務事業の目的や成果から考えて受益者負担を見直す必要がありますか？	現在の受益者負担は適正である		理由・改善案	伝統・保存のための公演なので、受益者負担は考えられない。
	⑧本事業の休止・終了条件(本事業はどんな状態になれば休止・廃止、事業終了となるか？)	牧歌舞伎保存会が、公演、運営と独自に事業ができるようになれば廃止できる。			
総合 評価					

3. 評価結果の総括と今後の方向性【Action】

(1) 今後の事務事業の方向性	(2) 改革・改善による期待効果	(3) 改革・改善を実現するうえで解決すべき課題(壁)とその解決策																					
事業のやり方改善(成果向上の見直し) * 評価結果に基づいた改革改善案を記入します。(複数ある場合は、①②・・・と記入します。現状維持の場合は記入しません。) 牧歌舞伎の活動や公演について、周知方法を検討し、牧歌舞伎の認知度の向上、公演に対する興味を高める訴求方法を実施する。	廃止・休止の場合は、記入不要 ×の領域は改革改善ではない。 <table border="1"> <tr> <td colspan="2" rowspan="2"></td> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td>○</td> <td></td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持	○		×	低下		×	×	
				コスト																			
		削減	維持	増加																			
成果	向上																						
	維持	○		×																			
	低下		×	×																			